

アルミ缶 リサイクル ニュース

January
1
2019

Vol. 146

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>



2019年 年頭所感 2019年理事長新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2019年の年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は米国が保護主義を強く打ち出すことで、西側諸国との関係悪化や米中の貿易摩擦が激化し、従来の世界構図が大きく変化するとともに経済指標も乱高下するという激動の時代に入ったと感じております。

一方、環境問題に目を向けると、世界的な海洋プラスチック問題への関心の高まりを受け、我が国でも今年のG20に向けた「プラスチック資源循環戦略会議」が立ち上がり、10月に環境省よりワンウェイプラスチックの排出抑制マイルストーンが出されました。

こうした中で、一昨年のアルミ缶市場は、RTD缶の好調は有ったものの、ビール系需要が13年連続前年割れとなり対前年99%の微減となりました。昨年は猛暑ではあったものの度重なる台風上陸等の影響もあり、またビール系需要減が止まらない一方で、PETボトル、紙容器など消費者の多様なニーズに応じた容器選択が進み、残念ながらアルミ缶市場は対前年比微減で着地したと見込まれます。

当協会は容器包装八団体で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーですが、昨年は自主行動計画2020の2年目として、2020年までにリデュース率5.5%の達成

と、リサイクル率90%以上の維持を目標に活動いたしました。実績としてリデュース率は5.3%まで上昇し、リサイクル率は92.5%と目標の90%以上を3年連続で達成することが出来ました。

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として、早くから皆様に認知され回収活動は容器包装八素材の中では比較的早期に始まり、消費者、回収団体(学校、町内会等)、自治体、事業者のご協力もあり、リサイクル率はこの10年間、安定的に80%以上を維持出来ております。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますと共に、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対して厚く御礼申し上げます。今後もしリサイクル活動啓発の一環として、回収功労者や功労団体の掘り起し、顕彰も続けてまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



アルミ缶リサイクル協会
理事長 富永 泰夫



3R推進団体連絡会 自主行動計画2020のフォローアップ報告

12月12日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する8団体が纏めた自主行動計画2020の2017年度フォローアップを経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みで、2017年度は6団体が2016年度実績を上回り、目標に向かって進捗しています。

リサイクルでは4団体が2020年度目標を達成するなどの成果がみられました。

また、容器包装3R推進フォーラムや、意見交換会、3R市民リーダー育成プログラムなどを実施しました。普及・啓発としては、エコプロ2018への出展、市民・自治体などとの交流会を行い関係各主体との連携・協働への取組みも深化しました。3R推進団体連絡会は、引き続き関係主体との連携を深め、循環型社会の推進に努めていきます。





2018年(平成30年)一般回収協力者表彰

全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で63団体(受賞者の詳細は前号Vol.145に掲載)が優秀賞を受賞され、10月末から1月にかけて全国で表彰式が開催されました。関東地区の受賞者と本年度優秀回収拠点1自治体、2社につきましても合同表彰式にて表彰を実施しました。



アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】およびアルミ缶優秀回収拠点表彰

平成30年11月13日千代田区竹橋の如水会館にて、関東地区の受賞団体20団体をお招きして合同表彰式を開催しました。表彰に先立ち富永泰夫理事長より「昨年の実績でリサイクル率92.5%を維持できました。半数は集団回収によるものであり、本日受賞の皆様には大変感謝しております。アルミ新地金は100%輸入に頼る中、国内では使用済飲料缶(UBC)の内、17万トンをふたたび缶に戻っています。UBCは貴重な国内に有る資源として認識しております。但し昨年来UBCの輸出量が増加しており、6万トンを超えるUBCが輸出されているのが実態であります。回収されたアルミ缶は国内で全て使用できないか思案しているところでもあります。又、PETボトルに侵食されたことも含め需要面では昨年比1%強の減少が見られますが、これが皆さんの回収に影響を与えているかもしれません。引き続きアルミ缶の回収を継続してお願い致します」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省製造産業局金属課長黒田紀幸様より「本日表彰を受けられた方々、永年この様な制度を開催頂いているアルミ缶リサイクル協会の皆様へ感謝します。またリサイクル率も3年連続で90%台を記録し続けているのは本日ご列席の皆様の地道な努力によるところが大変大きなものであると言えます。アルミニウムは軽く・強度が有り・加工性が良い・錆びにくい等の優れた特徴があり、主に建材

(サッシ)・車両(鉄道車両)・アルミ фоль等身近なところでも使われている素材で産業を支える基幹的な素材であります。これから車の電動化の加速に伴い、さらなる車体の軽量化が求められアルミニウムの重要度は今以上に大きくなることは確実であります。アルミニウムの新地金は100%輸入されており、資源の安定供給確保の観点からもアルミニウムのリサイクルは大変重要であります。3Rの観点からもアルミは循環型社会の優等生との位置付けともなっています。リサイクル時の劣化が少なく、環境影響が少ない素材であると言われております。現在日本の需要の概ね半分はリサイクルされた再生地金で賄っています。今回の各受賞者の取り組みを見ても判ります通りアルミ缶リサイクルの推進は国民一人一人の意識の向上・地域による自主的な取り組みが重要と考えます。今後もこれらの取り組みを継続し、アルミ缶リサイクルへの貢献をお願い致します」と挨拶がありました。

乾杯に先立ち田代泰副理事長より「アルミ缶のリサイクルは日本では当たり前定着していますが、世界をみるとまだまだリサイクル率の低い国も多い。一朝一夕でこの様になった訳ではなく昭和40年代からの皆様の努力でここまでできました。日本が今の状態にあるのは受賞者の皆様のご尽力・下支えがあつての事です。受賞者の皆様へ感謝申し上げます」と挨拶がありました。



挨拶する富永理事長



挨拶をされる経済産業省製造産業局 黒田課長



乾杯の音頭を取る田代副理事長

受賞者を代表して2団体様から受賞の喜びのお言葉を頂きました。



**コーシャハイム中野弥生町自治会
会長 大久保和彦様**



コーシャハイム中野弥生町自治会
大久保会長

「一番困ったのはこの中にもタバコを吸われる方がおられると思いますが、家の中は禁煙なので、外でタバコを吸う際に灰皿代わりにされて吸い殻が入ったままの缶が出されていた事。リサイクル処分する場合に非常に困りました。吸い殻を入れない様に地域の皆様宛てにポスティングしてようやく3週間後には出す人がいなくなりました。この辺の事は回収に携わっている皆様も多分ご苦労されていることと思います。灰皿代わりにしないように、きれいな状態でアルミ缶を出して頂けるよう皆様のご協力をお願いしたいと思います。本日は栄えある受賞式に参加させて頂きありがとうございました。」とのお言葉を頂きました。



**特定非営利活動法人 KOMNY ほほえみ
所長 柳川幸也様**



特定非営利活動法人
KOMNY ほほえみ 柳川所長

「障害者施設で約35年間アルミ缶の回収を継続してきました。過去には集まりすぎて困った(8ト/年間)時期もあり、回収しても処理ができない大変な時期もありました。アルミ缶の回収で得た資金は利用者の工賃の一部に充てられています。我々が全部集めたと言うよりは、始まりは地域の皆さんに協力して頂いている事からスタートしています。全ては地域の方々の協力無しには始まりません。ただ最近では地域での町内会・子供会・PTA活動も厳しさを増しているようです。これからも地域との繋がりが継続できるように頑張っていきたいと思っております。本日はありがとうございました。」とのお言葉を頂きました。

アルミ缶優秀回収拠点表彰



昭和58年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は浅口市（岡山県浅口市）、株式会社マルサン（静岡県三島市）、有限会社芳野（群馬県高崎市）の1自治体・2社が選ばれました。各社から受賞のお言葉を頂きました。

浅口市 松田勝久（副市長）様より

「この度は栄誉有る賞を頂き、ありがとうございます。アルミ缶リサイクル協会には浅口市の活動団体を何度も表彰して頂いています。資源活動を支える市としては非常に有難いと思っています。近年各地で地域の活動が縮小していく中、浅口市は資源回収活動が古くから根付いている土地柄で今でも資源回収を通して地域の絆がはかられています。地域子ども会の活動は子供の健全育成に繋がると考えておりますので、これからも活動を継続していけるように頑張りたいと思います。」とお言葉を頂きました。



浅口市 副市長 松田勝久様

株式会社マルサン 渡邊俊一（代表取締役）様より

「鉄スクラップを主業としてリサイクル全般を扱っています。先ほどのお話の様に日本では現在アルミの精錬はやっていません。アルミニウムはボーキサイトから製造するのに比べてアルミ缶からリサイクルすれば、エネルギーは3~4%で済みます。省エネ・省資源の観点からもさらにCAN to CANを進めていくべきと考えます。その為にはアルミ缶をもっときれいに回収拠点に持って来て頂ける様に皆様方の協力をお願いしたいと思います。」とお言葉を頂きました。



株式会社マルサン 代表取締役 渡邊俊一様

有限会社芳野 芳野雅彦（専務取締役）様より

「この度は素晴らしい賞を頂き誠にありがとうございます。我が社は資源回収・廃品回収を軸に事業をやってきました。9月にアルミ缶の回収センターを立ち上げさらにアルミ缶のリサイクル事業を大きくやっていこうと言う最中でこのような賞を頂き、社員一同非常に喜んでます。これを機にさらにアルミ缶のリサイクル事業を発展させ今後も精進して行きたいと思っています。」とお言葉を頂きました。



有限会社芳野 専務取締役 芳野雅彦様

2018年（平成30年度）「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」表彰風景



郡上市立和良小学校



郡上市立郡上東中学校



南魚沼市立五日町小学校



富士市立吉原東中学校



中野区立向台小学校



浅口市立金光小学校



浅口市立寄島小学校



弘前市立小沢小学校



弘前市立岩木小学校



滑川市立早月中学校



白鷹町立鮎貝小学校



東広島市立河内西小学校



東広島市立小谷小学校



秦野市立東中学校



伊東市立八幡野小学校



エコプロ2018出展 明るく開放的なブース リサイクルクイズで少しお勉強

エコプロ2018(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は12月6日(木)~8日(土)の3日間、東京ビッグサイトで、「SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」をテーマに「環境とエネルギーの未来展」として開催されました。今回20回目となった本イベントへの総来場者数は162,217人で昨年より2100人の増加となりました。当協会ブースへは4200人の方が来場されました。

3R推進団体連絡会の一角にある協会のブースでは「よくわかるアルミ缶リサイクル」をテーマに「使いやすいアルミ缶」「生まれ変わるアルミ缶」を訴求する現物展示で理解を深めてもらいました。今年は特に展示体験コーナーを増設し、UBCプレス品を持ってみる、秤を用意して実際にアルミ缶の重量を測ってもらう試みも準備しました。

昨年好評だった鶴のオブジェに加え、一般の方が制作した風車の展示も行い、来場者からは驚きの声が聞かれました。

又、回収されたアルミ缶がどのようにしてリサイクルされるのかも現物と共に見て頂きました。

リサイクルクイズではアルミ缶のリサイクルによる省エネ効果・タブは付けたまま回収すること・リサイクル率・CAN to CAN率等をパネルで確認しながら楽しく学習して頂きました。

12月8日(土)午後には松竹芸能の人気女性お笑いコンビ“アルミカン”の二人によるエコ漫才・クイズ等で来場者の皆さんに楽しんで頂きました。



ブース全景



体験コーナー



リサイクルクイズ



ブース風景



アルミカン エコ漫才

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえで、キャップを軽く締め、回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

●旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。今年は新元号の制定・ラグビーワールドカップと歴史的なイベントが控えています。

●そうこうしていると来年には東京オリンピックが迫っている大事な年なのではないでしょうか?今年こそ昨年のような災害が無く皆様が安泰に幸せに過ごせる年になりますように!

アルミ缶リサイクルニュース第146号

発行日 平成31年1月28日

発行人 森口 夏樹

編集人 小林 裕

発行所 アルミ缶リサイクル協会